

第四十五回帝國議會
衆議院

傳染病豫防法中改正法律案外一件
(海峽檢疫法中改正法律案) 委員會會議錄(筆記) 第一回

委員會成立

本委員ハ大正十一年三月二日議長ノ指名ヲ以テ左ノ通り選定セラレタリ

八木 逸郎君 齋藤 壽雄君 山田 永俊君
大林森次郎君 岩崎宗茂助君 三浦得一郎君
中馬 興丸君 近藤 達兒君 松下 禎二君

同月三日午前十時二十分委員長理事五選ノ爲各委員參集ス其ノ指名左ノ如シ

八木 逸郎君 齋藤 壽雄君 山田 永俊君
大林森次郎君 岩崎宗茂助君 三浦得一郎君

年長者齋藤壽雄君投票管理者トナル
齋藤投票管理者ハ委員長及理事ノ互選ヲ行フヘキ旨ヲ宣告ス

○山田委員ハ投票ヲ用キス委員長及理事ノ指名ヲ投票管理
者ニ一任スヘントノ意見ヲ提出ス
○齋藤投票管理者ハ山田君ノ意見ニ異議ナキヲ認メ八木逸
郎君ヲ委員長ニ大林森次郎君ヲ理事ニ指名ス

○委員長ハ就任ノ挨拶ヲ述ヘ散會ヲ宣告ス
于時午前十時二十五分

會議

大正十一年三月四日午前十時五十分開議
出席委員左ノ如シ

委員長 八木 逸郎君
理事 大林森次郎君
齋藤 壽雄君 岩崎宗茂助君 中馬 興丸君
近藤 達兒君

出席政府委員左ノ如シ
內務次官 小橋 一太君
內務省衛生局長 潮 惠之助君
內務省衛生局防疫官 內野 仙一君

本日の會議ニ上リタル議案左ノ如シ
傳染病豫防法中改正法律案(政府提出)

○八木委員長 是カラ委員會ヲ開會致シマス、本會デモ御
說明ニナリマシタケレドモ、先ツ政府委員 ヨリ尙ホ詳細御
說明ヲ願ヒタイ

○小橋政府委員 既ニ本會議ニ於テ說明ヲ大體申上ゲマシ
タノデ、要項ハ盡キテ居リマスガ、御承知ノ通り現行法ハ明

治三十年三月ノ制定ニ係リマシテ、其後明治三十八年ノ三
月ニ一部ノ改正ヲ加ヘタノデアリマスガ、其後歲月ノ經ル
事十年以上ニモナッテ居リマスノデ、實際上取扱並ニ學術上
ノ進歩等カラ致シマシテ、改正ヲ要スル事ガ段々出テ參ッテ
居リマスノデ、實ハ今少シ早ク改正シタ方ガ宜カタト思フ
位デアリマス、改正ヲ爲スベキ要點ニ付キマシテハ、何レ細
目ニ亙リマシテハ、各條項ニ付テ政府委員 ヨリ詳細ニ申上
ゲルコトニ致シマセウガ、改正ノ第一點ハ、豫防法ノ全部ヲ
適用スルニ及バナイヤウナ、傳染病ノ種類ニ依リマシテハ、
其一部ヲ適用シ、又病氣ノ性質ガ地方的ニ限局セラレベキ
モノニ在リマシテハ、ソレハ全國的ニ傳染病豫防法ヲ適用
スル必要ハナイカラ、其傳染病ノ流行スル地域ヲ限ッテ適切
運用上適切ナル處置ヲ執ルコトガ出來マスノデ、且ツ法ノ
便利ナル方法ヲ執ルヤウニ致シタノデアリマス、第一條
ニ第三項ニソレヲ規定シテアルノデアリマス、次ニ第二條
ニ於テ「コレラ」ニ「ベス」トノ如キ傳染病ノ疑似症ニ付テハ、
當然何等ノ手續ヲ經ズシテ傳染病豫防法ヲ適用スルヤウ
ニ、第一條ノ一項ニ規定ヲ致シタノデアリマス、從來ハ傳染
病ガ流行シ、若クハ流行ノ虞アルトキニ、地方長官ハ其傳染
病ノ疑似症ニ對シテ、傳染病豫防法ノ全部 若クハ一部ヲ適
用スルコトガ出來テ居リタノデアリマスガ、今回改正ニハ
「コレラ」ニ「ベス」トノ疑似症ガケニハ、其等地方長官ノ手續
ヲ待タズシテ、當然傳染病豫防法ヲ適用シテ、傳染病患者ニ
付テハ、是ハ其病氣ノ性質、病毒ノ傳播ノ狀態等カラ考ヘマ
シテ「コレラ」ニ「程直」ニ法ヲ適用スル必要ハナイン、又地方ノ
狀況ニ依リ、流行ノ狀態ニ依リ、又地方ノ産業、其他個人ノ
自由ト云フヤウナ種々ナ關係モアリマスノデ、地方ノ實狀
ニ應ジテ、知事ガ疑似症ヲ適用シ得ル途ヲ開イテアルノデ、
是ハ從來ノ取扱ノ通りデアリマスガ、但シ其細目ニ亙ル事
柄デアアル故ニ「コレラ」ニ「ベス」ト以外ノ疑似症ニ對シテ、地
方長官ガ本法ヲ適用スル場合ニ於テハ、命令ノ規定ニ詳細
ヲ規定スルヤウニ致シテ居ルノデアリマス、第三ニ傳染病
ノ病原體保有者ノ取扱ニ關シテ、法文ノ根據ヲ明ニスルヤ
ウニ、第一條ノ二ヲ追加致シタノデアリマス、是ハ從來病原
體保有者ニ付テハ法ノ明文ナクモ、相當取扱ヲ致シ來ッタ
ノデアリマスガ、此保有者ニ對シテ矢張法文ノ根據ヲ明ニ
シテ、此保有者ヲ傳染病患者ト同様ニ看做シテ、豫防處置ヲ

執ルト云フコトガ適當デアアルカラシテ、ソレデ第二條ノ二
ノ第一項ニ其事ヲ規定致シタノデアリマス、而シテ第二項
ニ於テ「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シテハ
此法律中傳染病患者ニ關スル規定ニシテ適用シ難イモノ
ハ、命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クル「コレラ」ノ病原體保
有者ハ、ソレハ「コレラ」ノ性質ハ御承知ノ通り傳染モ猛烈
デアリ、害毒モ大デアアル、延テハ貿易上、國際上ノ關係ニモ、
大ナル影響ヲ及ボスコトデアアルカラ、此保有ニ付テハ嚴重
ナル取扱ヲスルガ宜シイ、而シテ保有者ノ方ハ、「コレラ」ノ
病原體保有者ハ、他ノ病原體保有者ヨリモ豫防上ニモ目的
ヲ達シ得ルモノデアアルシ、且ツ保有期間モ他ノ病氣「チフス」
等ヨリモ短イト云フコトデアリマスカラ、當然傳染病患者
ノ取扱ヲ致シテ、總テノ規定ヲ此患者ニ適用シテモ差支ナ
イノミナラズ、必要デアアラウ、斯ウ云フ趣旨デアリマス、其
他ノ病原體保有者「チフス」或ハ「デフテリア」等ノ保有者
ニ對シテハ、是ハ「コレラ」トハ、吾々ハ分リマセウガ專門家
ノ御意見デハ、餘程期間モ長イ、或ハ其傳染ノ徑路等モ、必
シモ「コレラ」ト同様ナ取扱ヲスル必要ハナイト云フノデ、命
令ノ規定ニ依ッテ、是ノ病原體保有者ニ對スル取扱ノ別段ノ
規定ヲ設クル途ヲ開イタノデアリマス、第四點ト致シマシ
テ、豫防上傳染病患者ハ、病毒傳播ノ虞アル業務ニ從事スル
コトヲ禁ズル途ヲ開イタノデアリマス、是ハ第八條ノ二項
トシテ條文ヲ追加致シタノデアリマス、是モ從來ハ規
定ハ無カッタノデアリマスガ、病氣ノ性質ニ依ッテ、傳染病患
者デアリナガラ、他ニ病毒ヲ傳播スル様ナ、或ハ飲食食物製造
販賣業者ト云フ様ナ、サウ云フヤウナ者ノ取締ヲスル、且ツ
今回ハ傳染病病原體保有者ヲモ傳染病患者ト看做スル、又
保有者ノ如キハ自ラハ病症ヲ發セズシテ健康デアリナガ
ラ、一般ノ人ニ接觸スル業務、或ハ飲食食物製造販賣等ノ業務
ニ當ルヤウナコトガアッテハ、病毒ノ傳播ニ恐ベキモノガア
ルガ故ニ、特ニ此規定ヲ附加ヘタノデアリマス、其他或ハ消
毒ノ方法トカ、或ハ罰則ノ制裁ノ程度ヲ重クシタイトカ、或
ハ其他市制等ノ改正ニ伴フテ條文ノ整理ヲ要スルモノ、其
他鼠族以外ニ昆蟲其他ノモノニ對スル取扱、或ハ汽車以外
ニ電車ノ取扱等ノヤウナコトノ條文ガ附加ヘラレタノデア
リマスガ、尙ホ細目ニ亙テハ各條ニ付テ御說明ヲ申上ゲ、
又御質問ニ應ジテ御答スルコトニ致シタイと思ヒマス

○中馬委員 傳染病豫防法ガ現行法ヨリ一段ノ進歩ヲスル
ト云フコトハ、非常ニ結構ナ事デアアルト本員ハ喜ブ次第デ

アリマス、就キマシテ次官モ居ラレマスカラ、序ニ承リタイ
ト思ヒマスガ……

○八木委員長 一寸御待チ下サイ

○中馬委員 サウスルト次官ニ關係ノ無イコトヲ伺ヒマセ
ウ、第一條ノ終リニ改正セントスル點ニ「命令ヲ以テ此ノ法
律ノ一部ヲ適用シ又ハ地域ヲ限リ此ノ法律ノ全部若ク
ハ一部ヲ適用スルコトヲ得」ト云フコトハ、場合ニ依テハ
例ヘバ輕イ「デフテリヤ」トカ、流行性腦脊髄膜炎ト云フモ
ノニハ之ヲ適用シナイデモ宜イト承知シテ宜イノデアリマ
セウカ

○湖政府委員 只今中馬サンノ御尋ハ「デフテリヤ」流行
性脊髄膜炎ヲ御尋ガニナリマシタガ、此二ツノ疾病ハ御承
知ノ通り、第一條ノ一項デ、全部此法律ヲ適用スルコトニナ
リ居ルノデアリマス、第三項ヲ入レマシタ趣意ハ斯ウ云フ
譯ナノデアリマス、御承知ノ通り現行法ノ第一條ノ二項
之ニ依リマス、何カ茲ニ傳染性ノ疾患ガ起リマシタ、之ニ
豫防方法ヲ適用シテ豫防ヲ致シタルヲ考ヘマシタガ、苟モ
主務大臣ガ一ツノ病氣ヲ指定スル以上ハ、スツカリ此法律ハ
一條カヲ三六條マデデスガ、傳染病豫防法ナルモノハ、一
伍一什適用シテ行カナレバナラス、所ガ最近ニ私共最モ
痛切ニ感ジマシタノハ流行性感冒ナドデアリマス、隨分世
間デハ早く傳染病豫防法ヲ適用シテ、豫防法第一條第二項
ヲ主務大臣ハ指定權ガアルノデアリマスカラ、指定シタラ
宜イデヤナイカト云フ議論ガ起ッタ、ソレニ付テモ餘程研究
ヲ致シテ來タノデアリマスガ、斯ノ如キ猛烈ニ又全國ニ擴
タ流行性感冒其物ヲ、イキナリ第一條第二項ニ依ッテ主務大
臣ガ指定シテ見タ所デ、中々ア、云フ場合ニ、第一條以下
三十六條ノ全般ヲ適用スルコト云フコトハ、事實不可能ト考
ヘテ、其際ノ適用ヲ見合シタルデアリマス、私ハ此法文ノ中
ノ數箇條ヲ拔キマシテ、而シテ最モ適切ナル——適用シ得
ル法文ヲ適用スル、寧ロ適用シ得ナイ所ヘハ、相當ノ條文ヲ
引用シテ、之ヲ徹底セシメタイト思ヒマス、之ニ氣付キマシ
タノハ敢テ流行性感冒バカリデアリマセヌノデ、將來ト雖
モ若シ指定ヲ致シマスル際ニ、今日ノ如ク全然此法律全體
ヲ適用スルモノモアリマセウ、ソレハ一條ノ二項デアリマ
シテ、一條ノ三項ニ行キマス分ハ、此法ノ中ノ數箇條ヲ適用
スルコト云フコトヲ命令デ示シテ、豫防ノ實ヲ擧ゲルモノモ
アリマセウ、或ハ又他ノ府縣ニ無クシテ一府縣或ハ一地方
ニ斯ウ云フ傳染性ノ疾患ガ有ル、此病氣ニ向ッテ法ノ全部ナ
リ、或ハ今申ス數箇條ナリヲ適用シテ、豫防ノ實ヲ擧ゲラレ
ルモノモアルデアラウト云フコトカラ、第三項ヲ抜イタノ
デアリマス

○大林委員 議事進行ニ付テ一言致シタイ、大分此箇條ガ
多イノデアリマスガ、質問ヲスル便宜上、逐條ニ涉ッテ質問
致スト云フコトニシタイト思ヒマス

○八木委員長 ソレニ御異議アリマセヌカ
「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○中馬委員 大體ニ付テ政府ノ御意見ヲ承ッテ置キタイト
思フノデアリマス

○八木委員長 先ツ以テ大體ニ付テ御質問ヲ……

○中馬委員 結核ノ事デアリマス、結核ハ此傳染病豫防法
ヲ以テ、取締ルベキモノデハナイト云フコトハ承知シテ居
リマス、其結核豫防方法ニ付テハ、各府縣ニ於テ色々團體等
ヲ造ッテ豫防會ト稱スルモノガアリマスケレドモ、事ガ餘リ
ムヅカシイノデアアルノデ、何處デモ效アリマセテ居ル事ヲ見
ナイノデアリマス、政府ハ何カ徹底ノ方法ニ近イモノヲ
拵ヘテ、此結核豫防ノ爲ニ法律若クハ命令ヲ以テ、モウ少シ
徹底ノニヤルト云フ御自信ガアリマセウカ、何カ方法ニ付
テ御成案ヲ御持ニナッテ居ルデセウカ、年々結核病ノ爲ニ斃
レル死亡數ハ追々ニ増シテ來ルヤウニ統計上承知シテ居ル
ガ此際更ニ徹底ノ方法ヲ講ジテ、結核豫防ヲスル必要ガ
アルモノト信ズルノデアリマスガ、此邊ニ對スル政府ノ御
所見ヲ承ッテ置キタイ

○小橋政府委員 此結核ノ事ニ付テハ、御尋ノ點ハ御尤ノヤ
ウニ思ヒマス、結核ノ恐ルベク、且又我國ニ於テ結核病ノ猖
獗ヲ極メテ、其爲ニ斃ルル者ノ多イコトハ洵ニ遺憾ニ存ズ
ルノデアリマス、此結核ノ豫防方法ニ付キマシテハ、政府ニ
於テモ大分以前ヨリ意ヲ用キテ居リマシタガ、ズツ以前ニ
結核療養所ノ設立ヲ強制スル法律ヲ作り、又補助ヲ出シテ獎
勵ヲ致シテ居タノデアリマスルガ、更ニ大正八年ニ結核豫
防法ヲ制定シテ、結核豫防ニ對スル施設等ニ對シテ詳細ニ
規定ヲ設ケタノデアリマス、併ナガラ是ガ遂行上ニ付キマ
シテハ、地方ニ於テ費用モ要ルシ、各自ノ注意ニ依ル事モア
リマスガ、團體ノ費用ニ依ッテ施設シナレバナラス事ガ大
分アルノデアリマス、ソレデ最モ結核豫防上必要ナルハ、療
養所ノ設立デアラウト思ヒマシテ、之ニ對シテハ政府ニ於
テ補助ノ途ヲ開イテ、公共團體等ノ設立ヲ獎勵シテ、出來ル
ダケ各地ニ其施設ヲ勸メテ居リマス、サリナガラ、是ハ地方
團體ノ費用ノ關係モアルシ、國ノ補助ニ關係モアルノデ、サ
ウ十分ニ行ッテ居ルトハ申サレマセヌケレドモ、出來ルダケ
ノ事ハ致シテ居ルノデアッテ、將來モ財政上ノ餘裕ヲ見テ、
出來ルダケ結核豫防上ノ施設、若クハ療養所ノ設置等ニ對
シテモ意ヲ用キタイト思ヒマス、尙ホ細目ニ亙ッテハ衛生局
長ヨリ御答申上ゲマス

○中馬委員 結核療養所ノ御話ガアリマシタガ、大阪府兵
庫縣ニ於ケル結核療養所ダケハ承知シテ居リマスガ、其收
容シ得ル「ベット」ノ數モ極メテ少クテ、結核患者モ療養所ニ
於テ治療ヲ受ケルベク、餘リニ多過ギルト思フノデアリマ
スガ、療養所ニ僅許リノ患者ヲ收容スルコト云フ事デハ、殆ド
何等ノ效ヲ見ル事ノ出來ルモノデナイト考ヘテ居リマス、
開業醫ガ結核患者ヲ診斷シテ、多クハ死亡スルガ、或ハ長
ク病床ニ在ル場合ニ、看護ヲシテ居ル看護人ニ傳染スル機
會ガ、極メテ多イカノヤウニ思フノデアリマス、サウ云フ場
合ニ何トカソレニ若干ノ補助ヲ與ヘンデアルトカ、或ハ消毒機
ヲ作ルトカ、寢具若ハ病室ヲ極ク容易ニ消毒シテヤル設
備トカ、其費用ヲ地方團體トカ、或ハ赤十字病院ノ支部ノア
ル所ニ、支部ノ費用ヲ政府ガ補助シテヤル、或ハ府縣立學校
トカ、縣立病院ガアレバ病院ノ方デヤル、或ハサウ云フモノ
ノ設備ノ遠イ所ニ於テ、ソコノ隔離病舎、若クハ傳染病院
——若クハ人ヲ派遣スルトカ、云フコトデ、容易ク其消毒ヲ
ヤルト云フコトガ出來レバ、餘程傳染ノ機會ヲ少ナクスル
ルコトガアリハシマイカト思フノデアリマス、ソレデ私共
長ク開業シテ居リマシタ、患者ニ接シタ場合ニ患者ガ死亡
スルトカ、或ハ長ク病氣デアッタトキニ、寢具被服類ヲ消毒
スルコトヲ、醫師トシテ嚴重ニ命令スルノデアリマス、併シ
中々醫者ノ言フコトヲ、餘程智識ノ程度ノ高い人デナイト
ソレヲ背カズニ、或ハ親戚故舊ニ形見分ケノ意味ニ於テ之
ヲ贈ルト云フヤウナコトヲシテ、全ク病室ニ汚染シタ被服
類ガ、親戚故舊ニ贈マッテ居ル場合ガ多イノデアリマス、是
ハ一方ニ於テ結核ニ對スル智識ガ足りナイ結果デモアリマ
セウガ、一方ニ於テ何カ簡單ニ之ヲ「ホルマリン」消毒トカ、
熱湯消毒トカ、品質ヲ傷メズニ出來ル設備ガアレバ、サウ云
フ事モアルマイト思フノデアリマス、消毒設備ガ非常ニ應
劫デアルガ爲ニ、今申上ゲタヤウナ形見分ケトシテ、病室ガ
傳播スル機會ガ随分多イノデアリマス、消毒班ノ如キモノ
ガ傳染病院ニハアリマスガ、其消毒班ガ依頼ニ應ジテ、何時
デモ結核患者ノ室ニ行ッテ消毒ガ出來ルト云フコトデアレ
バ、餘程此點ニ於テ效力ガアリサウニ思フノデアリマス、サ
ウ云フ消毒設備ハ、何トカ法律ヲ以テ制定ガ出來レバ至極
結構デアリマス、ソレカラモウ一ツハ結婚制限法ト云フモ
ノハ今世界ノ醫學界ノ問題ニナッテ居ルヤウデアリマス、米
國ノ或州ニ於テハ隨分徹底ノ制限法ヲ行ッテ居ルヤウデ
アリマスガ、獨リ結核ノミナラズ、「レプラ」其他ノ中毒症、
或ハ精神病者等ニモ、徹底的ニ此結婚制限法ヲ行ウテ居ル
國モアルヤウデアリマス、本員ハマルサス主義ニカブレレ
ル譯デモアリマセヌガ、結核患者ノ子孫ガ多ク結核患者デ
アルト云フコトハ、爭フベカラザル事實デアル、又結核患者ト
供フ產ムト云フコトモ隨分アル事デアル、何トカ其結婚ヲ

——非常ニ遺傳性ノ疾患ヲ持ッテ居ル者ニ、或ル程度マデノ結婚制限法ヲ作ルト云フコトガ、國民ノ體質及素質ヲ良クスルコト云フ成績ヲ舉ゲルモノト信ジテ居ルノデアリマスガ、政府ニ於テ結婚制限法ト云フコトニ付テ御研究ヲ爲サツカ、或ハ之ヲ近キ將來ニデモ設ケテ見ヤウト云フ御考ガデアレセウカ、此點ノ御考ヲ聽キタイノデアリマス、先ヅソレダケデアリマス

○潮府府委員 御答致シマスガ、御話ノ通り此結婚ノ事ニ付キマシテハ、政府モ非常ニ苦慮致シテ居ルノデアリマシテ、大體ハ先程內務次官カラ御答ニナリマシタヤウニ、今日デハ結婚豫防法モ制定サレ、著々其實效ヲ舉ゲタウト苦心シテ居ル次第デアリマスガ、各般ノ事情カラ政府ノ思フヤウニ行カヌハ遺憾トスル所デアリマス、只今御尋ノ所ニモアリマシヤウニ、例ヘバ患者ガ豫防法等ノ適用ノ爲ニ、或ハ生活ニ困難ヲ感ズルト云フヤウナ場合ノ救済法ト致シマシテハ、現ニ結婚豫防ノ條章ニ依リマシテ、結婚ノ爲ニ職業ニ從事スルコトヲ禁止シタル者、或ハ結婚豫防所ニ入院ヲ命ゼラレタ爲ニ生活困難ナ者、其等ノ者ニ對シテハ、配偶者ナリ子供ナリニ施行令デ定メマシテ、國庫並ニ地方費——府縣カラ生活ノ費用ヲ補助ラ致スコトニナッテ居リマス、無論之ニ對シテハ、國庫モ相當ノ費用ヲ支出致シテ居ルノデアリマス、又第二ノ御尋デアリマシタ衣服費其他ノ消毒ノ事モ御尤デアリマシテ、斯ノ如キ物件ヲ媒介トシテ病氣ガ蔓延スルト云フコトハ隨分恐レベキモノデアルト思ヒマス、ソレデ政府モ從來消毒上ノ設備ニ付キマシテハ、極力獎勵致シテ居ルノデアリマス、今日或ハ結婚ナリ其他急性ノ傳染病ナリニ、現ニ消毒所ヲ設立シテ居ルノハ、大分數アルノデアリマス、又結婚豫防法ノ施行後ニナリマシテ新ニ企テタモノモ、縣費トシテ設立シタル所モアリマス、ソレカラ又公共團體ニモ消毒班、斯ウ云フモノ、設備ヲ致シテ居ル所モアルヤウデアリマス、其外又公共團體ニモアリマス、私

立ノ消毒機關等モ大分發達致シテ參リマシタ、私共トシマシテハ此各種ノ危險物件ニ對スル消毒ノ普及ト云フコトハ、極力獎勵ラ致シテ居ルノデアリマス、デアリマスガ何ト申シマシテモ多數ノ病氣デアリマス、隨分執拗イ病氣デアリマス、斯ノ如キ方面ニ力ヲ用キマス、智識ノ普及スルト云フコトモ努メナケレバナラヌノデアリマス、之ニ向ヒマシテモ既ニ私立ノ團體トシテ結婚豫防協會、或ハ官廳ノ側テハ府縣、市町村皆ナ一致シテ、此結婚豫防ノ事ニ從事シテ居リマス、是等ノ事ハ各方面カラ力ヲ戮セテ、豫防事業ノ發展ニ盡力ラ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ第二ノ御尋デアリマシタ此結婚制限ノ事モ、是非非常ナ問題デア

リマシテ、既ニ結婚ナリ、精神病ナリ、進ンデハ花柳病ナリ、癩ナリ、斯ウ云フモノニ付テ何等カ結婚制限アル必要アルデハナイカト云フコトハ、今日ハ醫界デハ議論ニナッテ居リマス、此結婚制限アルスルト云フコトハ、餘程民情ヲ顧ミナケレバナラナイ事デアリマス、假ニ亞米利加ノ或州デ法律ヲ設ケテ居リマシテモ、之ヲ直ニ模範トシテ我國ニ當嵌メルト云フコトハ、餘程困難ナ事情アルト思ヒマス、又之ヲ研究スルニシマシテハ、其法案ナリ規則ナリノ内容ニ付キマシテモ、尙ホ研究ヲシナケレバナラナイ、假ニ法案ヲ書キマシテ所デ、中々之ガ實行シテ效果ヲ舉ゲルモノデアアルカドウカト云フヤウナコトハ、實際化シテ來レバ直グ問題ニナリマスガ、抽象的ニ考ヘテ見マシテモ、我國ノ民情ニ照シテ、今直ニ疾病豫防ノ爲ニ結婚ニ對スル禁止、若クハ制限ヲ加ヘルト云フコトハ如何デアアルカ、又法律案ナリトシテ考ヘレバ、尙更茲ニ研究ヲ要スルト云フコトハ、近ク之ヲ何等カノ手段ヲ以テ、結婚制限ヲ致スト云フダケノ決心ヲ持ッテ居リマセヌ、一應御答ヲ致シマス

○中島委員 尙ホ序ニ御質問致シマス、癩ノ豫防ニ關スル事デアリマスガ、是ハ十數年來ノ懸案ニナッテ居ッテ、法律モ制定シテ居ルノデアリマスガ、矢張癩病患者ガ到ル處ニ收容所ニ入ラレズニ、東京市中デモ見受ケルヤウデアリマスガ、政府ハ急速ニ徹底的ノ癩ノ豫防法ニ付テ、或ハ癩ノ村ヲ組織シテ、癩病患者ヲ總テ其所ニ收容シテ、彼等ニ樂シイ餘生ヲ送ラスト云フヤウナ設備アル御考ガ、今ニ於テアリマセウカドウデアリマセウカ、隨分費用モ掛ルコトデモアリマスガ、此儘ニ打拾テ、現在ノ程度デ甘シテ置クト云フコトハ、到底忍ビナイ事デアラウト思ヒマスガ、幾ラノカ犧牲ヲ拂ッテ費用ヲ思切ッテ支出シテ、徹底的ノ癩ノ豫防方法ヲ講ズルト云フコトニ付テ御意見ヲ、更ニ承テ置キタイト思ヒマス

○潮府府委員 癩ノ豫防ニ付キマシテハ、私共モ到底今日ノ儘デハ満足スルコトガ出來スト思フノハ、中馬サント御同感デアリマス、之ニ付キマシテハ昨年モ或ル機會ニ御答ヲ致シテ置キマシタカト記憶シマスガ、政府ハ此癩ノ根本的ノ豫防策ト致シマシテ、一面ニハ今日ノ制度ニ則ッテ地方ノ癩收容所ノ擴張ヲ行ヒ、或ハ又一方ニハ或種ノ癩患者ニ對シテハ、國費ヲ以テ直接之ガ療養ノ途ヲ講ズルコトモ必要デアアルマイカ、又進ンデハ其方法トシテモ單ニ療養所ニ止メルカ、或ハ又各國モヤッテ居リマスヤウニ癩ノ村ヲ造ルトカシテ、隔離ヲシナガラ愉快ニ餘生ヲ送ラセルト云フヤウナ方法モ、癩ノ豫防策トシテ至極大事ナ問題ト考ヘマシテ、今申上ゲマシタヤウナ方策ニ付キマシテハ、一方研究

ヲ致スト同時ニ、一方ハ其幾部分カノ事業ニ著キテ致シタ積リデアアルノデアリマス、堆タ國庫ノ財政上ノ關係ナドモアリマシテ、衛生當局ガ考ヘマスル程ノ事ガ思フヤウニ出來ナイノデアリマスケレドモ、既ニ昨年モ地方ノ療養所ノ擴張費トシテ、僅カデハアリマシタガ兎ニ角特別ニ十萬圓ト云フ金ヲ費ヒマシテ、今年モ引續イテ費フ事ニナッテ居リマス、斯ウ云フ事ガ私共ノ計畫ヲ致シマシタ癩豫防策ノ一端デアリマスガ、到底之ヲ以テ満足ハ致シタ居リマセヌノデアリマスガ、大體カラ申シテ只今御話ノヤウナ事ニ付キマシテハ、議ヲ進メ又實行ヲ進メテ行キタイト考ヘテ居リマスノデ、御參考マデニ極ク大要ダケヲ御答致シテ置キマス

○大林委員 此第一條ニ於テ例ヘバ傳染病ノ種類ニ依リマシテ、隔離デアルトカ、消毒デアルトカ、其他豫防上ノ實行方法ニ差別ヲ付ケルト云フ考ハアリマセヌデセウカ、例ヘテ申シマスレバ、「コレラ」デアルトカ「ベスト」ノヤウナモノハ、傳染病院若クハ隔離病舎ヘ之ヲ收容スル、又腸「チブス」デアルトカ「バラチブス」トカ、發疹「チブス」トカ、猩紅熱、赤痢、斯様ナモノハ、醫師若クハ當該吏員ガ豫防上ノ必要ナリト認メタ場合ノミニ、傳染病院若クハ隔離病舎トカ、或ハ相當ノ設備アル所ヘ收容スル、又場合ニ依ッテハ自宅療養モ許ス、又デフテリア「或ハ流行性ノ腦脊髓膜炎ノ如キ患者ハ、原則トシテ自宅療養ヲ許ス、ソレカラ交通遮斷ニ付キマシテモ、「コレラ」トカ「ベスト」ノ如キ猛烈ナルモノニ限リ、其他ノモノハ交通遮斷ヲシナイト云フヤウナ御考ハアリマスマイカ、是モ一應御尋致シテ置キマス

○潮府府委員 只今大林サンノ御尋ノ點ハ、傳染病豫防ノ改正トシマシテハ、極重大ナル問題ト考ヘマスノデ、一應當局ガ之ヲ調査致シマシタ內情ヲモ少シ詳シク申上ゲテ、御參考ニ供シタイト思ヒマス、第一此傳染病豫防法ヲ改正致スト云フ際ニ、誰モノ頭ニ浮ビマスルノハ只今御話ノヤウナ問題デアリマシテ、アラユル疾病ニ對シテ同様ナ遺口ヲシテ行クト云フコトハ、結局ハ防疫上ノ大局カラ見テ損失デナイカ、何等カ此ニ病氣ニ付テ區別ラ付ケル必要ガアリハシナイカ、更ニ進ンデハ其區別ラ付ケ得ルトスルナラバ、此法案ノ上ニ明瞭ニシタラドウカト云フ議論ガアツタノデアリマス、デ其論者ハ例ヘバ文部省ノ學校傳染病豫防法ノ例ヲ引キマシテ、或ハ宮内省ノ宮内傳染病豫防法ノ例ナドヲ引キマシテ、是等ノ法令ニ於テモ各病氣ヲチャント分ケテ、之ニ適用スル法文ナリ、手心ト云フモノガ違フノデアアルガ、豫防法ニ於テモ左様ニ致シ得ナイモノデアラウカト云フコトヲ論議致シテ見タノデアリマスガ、結局私共ノ結論トシマシテハ、御覽ノ通り此法律ノ上デハ、各種ノ傳染病ヲ別々ニ

取扱ヲ異ニスルト云フ、明瞭ナル規定ハ置キマセヌノデア
リマシタガ、實質ト致シマシテハ、矢張防疫ノ上カラ言フナ
ラバ、今御話ノヤウニ或種ノ病氣ニ對シテハ同ジ條文ヲ適
用致シマシテモ、行政上ノ手心ナリヲ致ス方ガ、目的ヲ達ス
ル上ニ適當デアラウト思フ、デアリマス、例ヘバ入院ノコ
トニ付キマシテモ「コレヲ」ベスト」ノ如キモノハ兎ニ角、
是ハ病氣ノ性質上寧ロ絕對ニ入院ヲサセル方ガ宜シイカト
思フノデアリマス「チブス」ノ如キニナリマシテハ、之ヲド
ウモ「コレヲ」ベスト」ト同様ニシテ、絕對ニ入院ヲサセル
ト云フコトハ如何ナモノデアラウカ、差支ナキ場合ニハ私
立ノ病院モ宜カラウシ、或ハ自宅ニ相當取締ガ付クナラバ
自宅モ宜カラウ、又「デフテリヤ」ノ如キハ「コレヲ」トハ非
常ニ病症ガ違フカラ、原則トシテ自宅ニ於テ療養セシムル
ガ宜カラウ、方已ムヲ得ザル場合ニ於テハ入院ヲサセナケ
レバナラヌガ、大體サウ云フ腹案デ居ルノデアリマス、其事
ハ命令デ定メル積リニシテ置キマシタ、法律ノ上ニ書クコ
トガ困難ト申シマスノハ、宮内傳染病豫防法ノ目的ハ、宮中
ニ參入スルニ付テハドウカ、或ハ側近奉侍ニ付テハドウカ、
又文部省ノ學校ノ傳染病豫防法ノ目的ハ、學校ニ登校スル
コトヲ禁ズルカドウカト云フヤウニ、目的ガ極メテ少數デ
アッテ、而モ簡單デアリマス、所ガ此傳染病豫防法ノ如ク一
般ノ事ニナリマスルト、單純ニ二ノ目的デアリマセヌ、入
院、消毒、隔離等、各般ノ問題ガ起ッテ參リマス、命令ニ規定シ
テ明瞭ニスルノガ適當デアラウ、殊ニ文部省モ宮内省モ命
令デヤッテ居リマスカラ、左様ニ致シタ方ガ適當デアラウ
云フノデ、斯様ニ提案シタノデアリマス、案ノ内容ニ付テ
ハモット審議ヲ重ネナケレバナリマセヌカラ、御話ノヤウナ
コトニナッテ來ルト思ヒマス

○八木委員長 近藤サンニ申シマスガ、先刻質問ハ逐條デ
ヤルヤウニ定メマシタカラ、左様御承知ヲ願ヒマス——第
一條ニ付テ御質問ハ無イデセウカ

○中馬委員 「赤痢」ノ下ニ「疫痢ヲ含ム」ト書イテアリマス
ガ、只今迄ハ疫痢ハ赤痢疑似症トシテ取扱ハレテ居、タノデ
スガ、疫痢ハ吾々モ臨床上心得テ居ルノデアリマスガ、政府
ニ於テ御取調ニナッテ疫痢ハ、最近醫學上トシテナモノデア
ルノデセウカ、赤痢ト同ジモノデアリマスガ、或ハ別ニ疫痢ト
云フ病氣ガ存在スルノデアリマスガ

○潮政府委員 御尋ノ點ハ技術ニ入ッテ居リマスカラ、内野
防疫官カラ説明致シマスガ、其前ニ一應私カラ申シマス、從
來疫痢ハ當局ノ扱トシテ、赤痢疑似症トシテ扱、テ居リマシ
タ、各地方トモソレニ依ッテ傳染病豫防法ヲ適用シテ居リマ
シタノデアリマス

○内野衛生局防疫官 疫痢ハ赤痢疑似症トシテ、豫防上取
締ヲ致シテ居リマシタ、疫痢ハドウ云フ疾病デアルカト云
フコトハ多年議論アリマスガ、實際細菌検査上ニ於テ、疫
痢患者ノ糞便ヲ調査シテ見ルト——數字モアリマスガ略シ
マス、赤痢菌ヲ證明シタ例ハ可ナリアリマス、サウ云フノハ
赤痢ト認メナケレバナラヌノデアリマス、其他疫痢トシテ
研究サレタ中ニハ、特殊ノ疫痢菌ヲ認ムルコトガ困難デア
ルト云フノモアリ、或ハ一種ノ固有菌ガアルト云フヤウナ
事柄ガ、最近ニ於テ學界デ報告サレテ居リマシタ、内務省殊
ニ吾々ノ立場トシテハ、疫痢ハ赤痢ニ外ナラズト認ムルコ
トモ出來マセヌシ、又疫痢ハ特殊ノ菌ガアルト云フコトヲ
確言スルコトモ出來マセヌ、赤痢患者カラ疫痢菌ガアルコ
トヲ證明シタ例モアリマス、本病ノ豫防上赤痢ト傳染
ノ徑路、病毒ノ存在スル場所ガ大體同一デアリマス、赤
痢ト同一ニ扱フノガ適當デアルト云フ考デアリマス

○八木委員長 第一條御質問ガナケレバ第二條ニ移リマス

○大林委員 委員長

○八木委員長 大林君ニ申シマスガ、御質問ハ一ツ宛ニ願
ヒマス

○大林委員 疑似症トハ如何ナル意義デアルカ、當局ノ御
所見ヲ承リマス

○潮政府委員 疑似症ノ意義ニ付テ御尋デアリマスガ、大
體當局トシテハ疑似症トハ本病——本物ノ病氣ト云フ疑ハ
アルケレドモ、未ダ本病ナリト診斷スルコトガ出來ナイ
——ト申セバ簡單デアリマスガ、碎イテ申シマスト、本病ノ
疑アルモ、尙ホ本病ト診斷シ得ナイモノ、其疫病ニ現ル、所
ノ特有ノ主要症狀、極メテ酷似シタル症狀ヲ具備シテ居ル
ガ、果シテ本病ナリト診斷シ得ル程度ニ達シナイ、又其疫病
ニ現レル、特有ノ主要症狀ニ酷似シタル症狀ハ備ヘテ居ラナ
イケレドモ、其他ノ狀況ニ依ッテ、或ハ本病デナイカト云フ
疑ガアル、而モマダ本病ト診斷ガ出來ナイモノ、尙又其疫病
ニ特有ノ症狀ガ著明デナイケレドモ、細菌學的ノ試驗ニ依ッ
テ、其疫病ニ特有ナ病原體ニ酷似シタモノ、或ハ細菌試驗ノ
反應ノ結果ニ依ッテ、本病デアリハシナイカト云フ疑ヲ起シ
得ルモノデ、要スルニ酷似症ナリモノガ獨立ノ疫病デナイ
コトハ申ス迄モナイ、一言デ申セバ本病タル疑ガアルケレ
ドモ、唯タ疑ニ止マルノデ、マダ本病ト診斷シ得ナイ、理窟
ボク申セバ、サウナ申上ゲルヨリ外ニナイカト思ヒマス

○大林委員 サウシマスルト、自然之ヲ取扱フ者ノ考ニ依ッ
テ決メルト云フ外ナイデスナ

○潮政府委員 大體御尋ノ通りデアリマス

○大林委員 次ニ第二條第二項「命令ノ規定ニ從ヒ」云々
トアリマスガ、命令シ委ネタル理由、竝ニ其規定セントスル

内容ヲ、御差支ヘナイ限り御示ヲ願ヒタイ、例ヘバ病類ノ如
何ニ依ッテ、類似症ニ關スル規定ヲ適用スル者ト、適用セザ
ルモノガ出來ル意味デアルカ、又地域ヲ限リタル場合ニ於
テ、省令ノ範圍ト府縣令ノ範圍ト衝突シタリ、矛盾スル場合
ガ無イトモ云ヘナイガ、サウ云フ事ヲ規定サレル意味デア
ルカ、又疑似症ニ對シテ、其疑似症ノ程度ニ至ラザルモノ、
所謂注意患者ト云フモノガ、府縣ニ依ッテ府縣令デ發セラレ
テ居、其注意患者ニ對スル府縣令ヲ命ズルヤウナ事項迄モ
認メラレルノデアルカ、隨分府縣ニ依ッテ、疑似症ニ付テハ
大變爭ノ多イモノデアルシ、殊ニ疑似症ノ上ニ、更ニ注意患
者トシテ取扱ハレテ居ル所モアル、一面申セバ防疫上又實
際ニ於テ便宜ノ事モアリマスケレドモ、ソレガ爲ニ從來屢
々官憲ト醫師、若クハ醫師會トノ間ニ紛擾ヲ出スコトガア
リマシタ、動モスルト傳染病豫防法違反トシテ告發サレル
ト云フ場合ガアリマス、其等ニ付テノ御所見ヲ伺ヒタ
イ

○潮政府委員 第二條第二項ノ命令ノ規定ノ内容ハ、斯ウ
云フ事ニ考ヘテ居リマス、御尋ノ點ハ兩三點アリマシタケ
レドモ、私共ガ二條ノ命令ノ内容トシテ規定シヤウト考ヘ
マスノハ、其第一條第三項ニ依リマシタ、或ル疫病ニ對シテ此
法律ノ一部ヲ限ッテ適用スルト云フ之ニ關聯シタ命令ヲ書
カウト思フノデアリマス、例ヘバ或ル疫病ニ對シテ、内務大
臣ガ此豫防法ノ中ノ五條ナリ、七條ナリ九條ナリヲ適用ス
ルト指定サレタ場合ニ、地方長官ガ尙ホ其病氣ノ疑似症ニ
對シマシテ、ヨリ以上ト云ヒマスガ、ヨリ以上ノ規定ヲ適用
シテ行クト云フ事ハ、面白クナイト思フノデアリマス、主務
大臣ガ本症ニ對シテ、是々ノ條文ダケ適用シテ豫防ノ目的
ヲ達シヤウト考ヘテ居ルノハ、更ニ地方官ガソレ以外ノ事
迄モ適用シテ、或ハ一般ノ國民ニ對シ、或ハ又醫師ニ對シ
テ、大臣ノ豫想セザル負擔ヲモ掛ケテハ困ル、ソレハ寧ロ本
末顛倒ノ事ニナラウト云フ考デ、ソコヲ制限致ス積リデ居
ルノデアリマス、第一條第三項ニハ地域ノ問題ガアリマス
ガ、是ハ法律上ノ解釋トシマシタ、地域ノ事ハ別ニ命令ニ書
キマセヌデモ、主務大臣ニ於テ地域ヲ限ッテ指定シタナラ
バ、其地域以外ニ於テハ、其本症モ傳染病ノ扱ヲ受クベキモ
ノデアリ、隨テソレノ疑似症ニ關スル問題モ起リ得ナイト
考ヘテ居リマス、要スルニ此命令ノ内容ハ、法ノ一部ヲ限ッ
テ適用シタ場合ノ精神ヲ貫徹シタイト云フ希望デアリマ
ス、只今御話ノヤウニ往々地方ニ於キマシテ、官憲ト醫師、
或ハ醫師會トノ間ニ、疑似症問題ニ付テ色々紛爭ノ起ルコ
トモアリマスガ、是ハ多數ノ地方ニ於テ、而モサウ云フ紛爭
ノ起ルノハ少數ノ例デアリマシタ、是ハ將來官憲ト醫師ト
ノ諒解トカ、理解トカ云フヤウナ事デ、又疑似症ナルモノハ

凡ソ斯ウ云フモノダト云フコトニナレバ、左マデ變フル事
デハナイ、固ヨリ警察官ノ方デモ注意致サナケレバナラヌ
事デアリマスケレドモ、醫師及醫師會ノ方ニ於テモソコニ
打解ケテ豫防事務ニ當テ戴ケバ、サウ不都合ナ事モ生ジナ
イカト考ヘテ居リマス

○大林委員 大體諒解シマシタガ、現ニ府縣ニ依ッテ疑似症
以外ニ、注意患者トシテ取扱フヤウナ訓令カ何カヲ出シテ
居ル所ガアリマスガ、只今ノ御説明ニ依リ、左様ナモノハ
今後ハ全ク效力ハ無いモノト認メテ宜シイノデゴザイマ
スカ、又左様ナモノハ相當ナ手續ヲ以テ廢セシムルト云フ
御考デアリマスガ

○潮政府委員 御尋ノ注意患者ト云フモノハ、實ハ豫防法
ノ上ナリ、本省ナリニ於テハ、公式ニ認メテ居ル譯デハナイ
ノデアリマスケレドモ、惟フニ地方官ガ疑似症ニ付テ、往々
先程御話ノヤウナ見解ノ相違ナドガ起ルモノデアリマスガ
ラ、取扱ノ便宜上疑似ト云ヘバ、疑問ガアルガ、注意患者ト云
ヘバ比較的分リガシヤウト云フヤウナ事デ、實際ノ取扱
上ノ便宜ヲ圖テ致シテ居ルノデアリマス、無論法ノ立前カ
ラ申セバ、本症ト疑似症トニツヨリ無イノデアリマスガ
將來ハ此點ニ付テ研究シテ見タイと思フデ居リマス

○大林委員 御意見ノ在ル所ハ略々分リマシタガ、事實地
方ニ於テ屢々問題ガ官憲ト醫師ノ間ニ起リマスノデ、殊ニ
甚シキニ至ルト、例ヘバ或ル熱發患者ニ對シテ發痘膏ヲ貼
ル、發痘ヲ貼ルノハ既ニ疑ガアルカラ貼ルノデアリマスガ、疑
似症ノ届出ヲシテデナケレバイカヌト云フヤウナ事デ、屢
々警察官ト醫師ノ間ニ爭ヲ起スノデアリマスガ、其等ノ
點ニ付テハ十分ナル御研究ヲ希望シテ置キマス

○中馬委員 第二條ノ二デアリマスガ「トレーゲル」ヲ傳染
病患者トシテ看做スト云フコトハ、改正案ノ最新ノ項
ト信ジテ居リマス、之ニ依ッテ傳染病傳播ハ防グ事モ出來、
非常ニ良イ手段ト思フデ居リマスガ、是ハ餘程困難ナ事デア
ラウト思フノデ、慎重ニ之ニ付テノ御考ヲ聽イテ置キタイ
ト思フノデアリマス、成程第一項ニ「コレラ」以外ノ傳染病ニ
云ミトアリマスガ、是等ハ「トレーゲル」ヲ見出ス事モ易シ、
「トレーゲル」デアル期間モ極メテ少イノデ、「コレラ」ダケ
ニ對シテハ此「トレーゲル」ヲ傳染病患者ト看做シテ之ヲ取
扱フデ、非常ニ傳播ヲ防グ上ニ付テノ效力ノ偉大デアルコト
ヲ信ジテ居ル、以外ノ「トレーゲル」デ隨分期間ノ長イモノ
モアリマスガ、別ニ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲスルト云フ事
ガ書イデアリマスガ、此命令ニ付テノ内容ノ一部ヲ御漏シ
テ願ヒタイト思ヒマス、疑似症ヲ發見スルコトハサウ大シ
テムヅカシイ事デアリマセヌガ、其他ノ病氣ニ付テノ「トレ
ーゲル」ヲ見出スト云フコトハ、技術ノ上デ餘程困難ノモノ

モ澤山アリマスカラ、總テノ疑似症ニ「トレーゲル」ガ、傳染
病豫防法ノ規定デ罰セラルコト云フ事ニナリマスレバ、由
々シイ問題デアリマス、此命令ノ内容ニ付テノ一部ヲ御漏
シテ願ヘバ、非常ニ參考ニナル事ト思ヒマス、御成案ガアリ
マシタラ承テ置キタイ

○潮政府委員 「トレーゲル」ノ問題ニ付テハ、當局モ餘程
苦心ヲ致シタノデアリマスガ、「コレラ」ニ付テハ只今モ御
述ノヤウニ、「コレラ」ノ事ニ付テハ此法全部ヲ適用スル、是
ハ比較の困難ガナイヤウニ思ヒマス、併ナガラ第二條ノ二
ノ第二項ニモ掲ゲマシタヤウニ、「コレラ」以外ノ「トレー
ゲル」例ヘバ「チフス」ノ如キ者デアリマス、御意見
ノ通り隨分保有期間モ長イノデアリマス、之ニ此方法ソックリ
ヲ當嵌メルト云フコトハ、餘程困難ノ事情ガアリマス、ソコ
デ御覽ノ通り命令ヲ以テ、別段ノ何等カノ規定ヲ設ケルト
云フコトニシテアリマスガ、例ヘバ「チフス」ノ「トレー
ゲル」ニシマシテモ、或ハ一定ノ期間迄ハ、此法ヲ適用シテ行
クコトモ出來ヤウカト思ヒマス、併ナガラ或ル期間ヲ過ギ
テ、永久ニ此法ヲ適用シテ置クト云フコトガ困難ニナッテ
參リマシテ、其場合ニハ何等カノ手段ニ移ルヨリ外ナ
イ、其外ノ手段ガ即チ命令ニ書カウト思フデ居ルノデアリマ
シテ、例ヘバ「腸チフス」ニシマシテモ、或ル期間ヲ經過シタ
者ニ、入院トカ、或ハ隔離トカ、交通遮斷ト云フヤウナ規定
ヲ嵌メヤウトシタ所デ、殆ド實行困難デアル、人ノ自由ニモ
關スル、又財産上ノ損害等モ顧慮シナケレバナリマセヌカ
ラ、サウ云フ事ヲ命令デ定メテ疾々毎ニ即チ「トレーゲル」
毎ニ相當ノ學術上ノ論據ニ基キマシテ、或ル期間ヲ定メル、
其期間ヲ經過シタモノハ他ノ方法ニ移ル、即チ他ノ方法ト
申シマスレバ、手續イコトニハナリマスケレドモ、消毒ト
カ、清潔トカ云フヤウナコトヲ遵守セシメルヨリ外ハナイ
ト思フ、斯ク申シマスレバ、如何ニモ「トレーゲル」ノ取締ガ
不徹底極マルヤウニ見エマスケレドモ、是ハ致方ハナイト
思ヒマス、今日ノ學問上立派ニ書イデアリマスガ中々實行
ガムヅカシイ、我國ニ於テモ今日ノ場合トシマシテハ、先ヅ
第一段ノ進歩トシテ「コレラ」ノ「トレーゲル」ダケトシテ、
他ノ「トレーゲル」ニ對シテハ、法ノ適用ガ差支ナイダケハ
シマスケレドモ、到底此儘ニ法ノ適用シ難イモノハ、大體只
今申サヤウニ命令ノ内容デモ、定メテ、出來ルダケノ取締ヲ
スルヨリ外ハナイト云フコトニ歸著スルノデアリマス、命
令案ノ内容ハマダ局議モ確立シテ居リマセヌカラ、サウ詳
シク申上ダケル譯ニ參リマセヌガ、一端ヲ漏セト云フコトデ
アリマシタガ、大體サウ云フ筋ヲ各病ニ付テ施設ヲ致シタ
ラ、如何カト考ヘテ居リマス

○中馬委員 此中ニ於キマシテ、内務省デ御調ニナッタ各傳
染病ノ「トレーゲル」ノアル期間デアリマス、平均ト一番長
イモノト、各傳染病ニ付テ御調ガアリマシタラ御廻シテ願
ヒタイト思ヒマス、ドナタカ技師ノ御方カラノ……

○内野衛生局防疫官 「コレラ」ニ付キマシテハ、流行時特
ニ當局ノ手デ調ベマシタモノト、又府縣或ハ方々ノ私立、若
クハ縣立病院等デ調ベマシタモノト其他ヲ綜合致シマシ
テ、委細ニ調ベマシタ數字ガゴザイマス、「コレラ」ニ付キ
マシテハ、數字モ調査致シマシタ所ニ依リマシテ多少ノ異
動ガゴザイマスガ、先ヅ十日間位ガ多數ヲ占メテ居リマス、
ソレデ以テ菌ガ消失ヲ致シマスカラ、「チフス」ニ付テハ御
承知ノ通り、糞便又尿ト兩方ニ出マスモノデ、兩方ニ付テハ
調ガシテゴザイマスガ、大體三週間位デ以テ八十「パーセン
ト」消失スルヤウナ數字ニ認メテ居リマス、赤痢ニ付キマシ
テハ是ハ糞便タケデアリマシテ、尿ニハ先ヅ排出致シマセ
ヌガ、幾多ノ數字ヲ集メマシテサウシテ觀察致シマス、先
ヅ十四日位デ八十「パーセント」許リガ消失致シマス、ソレ
カラ「チフス」デアリマシテハ、流行性腦脊髄膜炎ハ一殊ニ流行性腦
脊髄膜炎ニ至リマシテハ、調査ノ數ガ餘リアリマセヌコト
ト、細菌學上非常ニ菌ガ弱イ爲ニ、調査モ「チフス」若クハ
赤痢、或ハ「コレラ」ノ如キ場合ト違ッテ困難ナ場合モアリ、
異動ガアリマスガ、當局ノ取締ノ案ヲ立テル場合トシマシ
テハ、先ヅ一週間位約八十「パーセント」ガ消失スルモノト
認メルヤウニナッテ居リマス、此調査シマシタ數字等ノ御必
要ガゴザイマスレバ、別ニ差上ガテ宜シウゴザイマス

○中馬委員 御廻ヲ願ヒタウゴザイマス、——此赤痢ノ方
ハ「バクテリア」ノ方デスナ

○内野衛生局防疫官 左様デゴザイマス

○中馬委員 「アミーベンゼンテリ」ノ方ハ……

○内野衛生局防疫官 「アミーベンゼンテリ」ノ方ニ付
テハ胸込病院等ニ行ッテ調ベタモノガゴザイマスガ、是ハ細
菌性ノ程ニ調査ハ十分ニ參ッテ居リマセヌ、偶々有ッタ患者
ニ就テ調ベマシタヤウナ數ガ、極ク少數デアリマス、「アミ
ーベンゼンテリ」ハ、内地ニ於キマシテハ、地方ニハサ
ウ流行シナイ、材料ハ此方デハ取レナイノデゴザイマス、今
申上ダマシタノハ、細菌性ノ赤痢ニ付キマシテノ事デゴザ
イマス

○八木委員長 私ハ一寸委員長ノ席カラ御尋シタイノデス
ガ、疑似症ニ付テ吾々ガ地方ニ居リマシタ時代ノ經驗ニ依
ルト、流行病氣ニ付テ疑似症ノ種類ヲ學デテ參リマス、其
學デタモノガ各府縣ニ依ッテ隨分違ッテ居ル、隣ノ縣デハ斯
ウ云フ此所マデノ腺ニ現レタヤツハ、取ルトカ取ラナイト
カヤカマシイ議論ガアリマスガ、政府ハ此疑似症ハ傳染病
ガ流行ツタトキニ、疑似症取締トシテ疑似症ノ形ヲ示サレ

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

○内野衛生局防疫官　今ノ疑似症ニ關シマシテハ、如何ナル方法ヲ用キマシテモ、實ハ本病ト決マラスシテ經過スル場合モアリマス、サウ云フノハ疑似症トシテ終始致シテ居リマス、今御尋ノ様ニ疑似症トシテ取扱フテ居ル、ソレカラ後ニ一寸病症ガ輕クナツタカラ退院シタ、其後立派ナ病狀ガアル、或ハ立派ナ反應ガ現レタ、或ハ病原體ガ捉マツタ、本症ト定マツタト云フ場合ニハ、當然本症トナルノデアリマスガ、疑似症ハ疑似症トシテ現レタ以上ハ、出來ルダケ本物デアルヤ否ヤト云フコトヲ、確メルニ努メルト云フ風ニシナケレバナラスモノト思フテ居リマス、併シドウ致シテモ疑似症デ終始シマスル場合ハ、實際ニ於テゴザイマス、殊ニ赤痢ノヤウナモノニ付テハ實際ニ可ナリゴザイマシテ、疑似症ヲ以テ終始スルト云フヤウナ事ガ實際ニアルノデアリマス、後デ定マリマスレバ、ソレハ疑似症デゴザイマセヌケレドモ、疑似症デ終始スルト云フ事ナクシテ、今マデ私共ハ本症デアルカ然ラザルヤト云フ事ニ付テ、之ヲ定メタイモノト努メテ居リマス

○大林委員 御説明ニ依ッテ大要ハ分リマシタケレドモ、例ヘバ「チブス」ノ如キハ、或ハ反應試驗トカ、細菌試驗ト云フモノヲ何回行ッテ、陽性ノ反應ガナケレバ、疑似症、即チ病毒ノ傳染ノ無イモノト認メルトカ何トカ、其間ノ程度、如何ナル程度デ、之ヲ解決スルカト云フコトノ御意見ガ御有リナサレバ承リタイ

○内野衛生局防疫官 ソレハドウモ醫學上ノ根據ニ依リマシテ診斷ノ方法トシテ決メルノデアリマシテ、病原體ガ捉マリマスレバ、無論症狀モ定マリ、論モ無イノデゴザイマスガ、一々細菌検査ヲ行フト云フ事ハ實際ノ問題ニ於テ出來マセヌガ、出來ルダケ材料ヲ検査所ニ送ルトカ、其他ノ方法ヲ以テ決定スルヤウニ各府縣ニ於テ努メテ居ルヤウデアリマスガ、其方法ヲ以テシテモ定マリマセヌ場合ガ實際ニ於テハゴザイマスノデ、此程度ナラバ疑似症デハナイ即チ本病デアル、此程度ナラバ本病デハナイ疑似症デアルト云フコトハ、實際決メ惡イ事デハナイカト思ッテ居リマス、ドウモ其場合々々ニ付テ醫學上ノ取扱カラ見マシテ、決定スルヨリ仕方ガナイト思フノデアリマス

○八木委員長 今日ハ是デ閉デマスガ、私カラ一寸政府當局ニ御相談シタイノデスガ、此傳染病豫防法ヲ通覽致シマス、餘程良クハナッテ居リマスガ、絕對ニ吾々ガ望ム程ニハナッテ居リマセヌ、併シ是ハ行政官ノ裁量ニ委ヌルト云フ意味デアリマスガ、又ハ規定スルノハ困難デアルカラデアリマセウカ、命令トカ勅令トカニ譲ッテアルノガ非常ニ多イヤウデアリマスガ、ソレハマダ省議デ決定シナイマデモ、大體ノ事ハ御分リニナッテ居リマセヌデセウカ、御分リニナッテ居レバ書イテ見セテ戴ケレバ宜イノデスガ、請求ハ致シマセヌガ、相談致スノデスガ、ムツカシウゴザイマスガ

○潮政府委員 大體ハ分ッテ居リマスカラ、書イテ差上ゲラレルモノハ書イテ差上ゲマシテ、又口頭デ御答ノ出來ルモノハ口頭デ其都度御答シヤウト思ヒマス

○中馬委員 草案デモ宜シゴザイマスガ成ベク見セテ戴キタイト思ヒマス

○八木委員長 私モ確定シタモノトハ認メマセヌカラ、草案デモ宜ウゴザイマスカラ、此次ニドウゾ出シテ戴キタイト思ヒマス

○潮政府委員 宜シウゴザイマス、出來マスダケハ項目書ニデモシテ差上ゲルコトニ致シマス

○八木委員長 ソレデハサウ云フ事ニ願ッテ置キマス、次ハ六日ニ致シタイト思ヒマス

午後零時二十一分散會

大正十一年三月十一日印刷

大正十一年三月十三日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局